

新シーズン、ブルーが始動! 今月はひと味違う傑作機特集も!

# JWings

[Jウイング] 戦闘機が楽しくなる  
ミリタリーマガジン

7 JULY 2012  
No.167

実はすごいヤツなんだ!

## 人気の名脇役機

A-10 / AV-8B / トーネード / U-2 / B-52  
Tu-95 / AH-1Z / Mi-8

# ブルーインパルス

今年も「ブルーの夏」がやってくる!

# 2012

## “BLUE IMPULSE”

連載 [月刊F-35]

### F-35の新しい開発計画





# 北アフリカの平和な国の エアショー!

## Marrakech Aero Expo 2012

モロッコ空軍が  
消防飛行艇とし  
て5機導入する、  
ボンバルディア  
CL-415のデモ。  
これまでに2機  
を受領している



モロッコ空軍C-130Hの空中放水。機内に巨大な放水装置を設置し、開いたランプドアから2本のノズルを出して、そこから水を落とす



KC-130と戦闘機6機による空中給油デモ。給油を受けているのはF-5×2機、その両脇にミラージュF1が追随し、F-16はエスコートという役回り。ミラージュF1は、現在27機をミラージュ2000-5/9と同等のアビオニクスを持つミラージュMF2000にアップグレード中



モロッコ空軍がローンチカスタマーとなった、ホーカー・ビーチクラフトT-6CテキサンII練習機。F-16パイロットの養成にも使える先進アビオニクスを備えている

モロッコ空軍のヘリコプターがほとんど全機種参加した模擬作戦デモ。作戦行動中のSA330Lピューマを、SA342ガゼルが援護する



4月4日から7日にかけて、モロッコのマラケシュ・メナラ空港において「マラケシュ・エアロエキスポ2012」が開催された。アフリカにおける唯一の航空エキスポと銘打たれたこのイベントは、いわゆるメーカー主体の航空ショーと王立モロッコ空軍のエアショーがないまぜになったものだ。主催者は民間企業だが会場は空港の軍用区画で、航空機メーカーがブースや展示機を出して商談の場を設ける一方、アフリカ諸国をはじめ世界各国から訪れた軍高官が見守るなか、モロッコ空軍機が派手にデモフライトをしてみせる。

民間企業では仏ダッソーや米セス

ナが小型、中型のビジネスジェットを持ち込み、EADSノースアメリカは本土からUH-72アラコタ汎用ヘリを空輸、モロッコ王立憲兵隊での同社機種運用50周年を祝うユーロコプターはAS550フェネック汎用ヘリの武装型を展示した。またアメリカ軍は、第17空軍司令兼アフリカ航空軍司令官マーガレット・H・ウッドワード少将も来場し、在欧軍や米本土からF-15Eをはじめ数機を送り込んで存在感を示した。

しかし圧倒的に目立っていたのはモロッコ空軍機だった。近年、同空軍は装備の近代化に取り組んでおり、その成果として2010年の前回よりもさらに

新しい機種を加えた陣容を披露した。最新鋭はロッキードマーチンF-16C/Dブロック52戦闘機、アレニアC-27Jスバルタン輸送機、ホーカー・ビーチクラ

フトT-6CテキサンII練習機、ボンバルディアCL-415消防飛行艇で、地上展示に加え、その他機種とともに連日の飛行展示に参加した。



左上/世界で唯一、人工降雨ミッションが可能なアルファジェット245。機首に高性能な気象レーダーを持ち、雲の中で化学薬品を散布して雨を降らせる  
左中/エキスポは4~6日がトレード・デー、7日がパブリック・デーだった。写真は4日の開会セレモニー。モロッコ空軍のCL-415による派手な放水デモを見守る来賓の各国軍高官 (Photo:USAFE)  
左下/オーストリアのダイヤモンド社DA-42MP (多目的プラットフォーム)。国境警備、監視、洋上哨戒などができ、世界各国で実績のある低コストな機種。今回もっとも各国の関心を買った機種のひとつ  
上/写真は8日の基地外周。UH-72アラコタをルイジアナ州フォートボーク陸軍基地から空輸したC-17が、見物人の前を通り過ぎてゆく



モロッコ空軍のF-16C×4機編隊 (上) と誘導路をタッキング中のF-16D (下、手前)。モロッコはブロック52のC型18機、D型6機の計24機を発注し、2011年8月から順次受領している。今年中に全機引き渡しの見込み。ちなみに通常4500機目のF-16は、今年4月3日にモロッコ空軍に納入された

